

東日本支部会2018 運用管理をデジタルイノベーション!? 新しい「ワークスタイル」を創ろう

2018年03月16日

JP1 ユーザ会 東日本支部会 2018

主催：株式会社アシスト 協賛：株式会社 日立製作所

運用管理をデジタルイノベーション!? 新しい「ワークスタイル」を創ろう



2018年 3月16日 金

会場：JAビルカンファレンスホール

アシストJP1ユーザ会が発足して13年。今年も2017年度の総まとめとして、東日本支部主催による運用管理をテーマとしたセミナー「東日本支部会2018」を開催しました。

IoT/ビッグデータ/AIといった新しい技術とワークスタイル変革に対して、情報システム部門はどのように取り組むべきか？基調講演をはじめテーマに沿ったセッションとユーザー事例でお送りしました。

主催：アシストJP1ユーザ会東日本支部 後援・協賛：株式会社日立製作所

基調講演 | マネジメント・トラック | テクニカル・トラック | アンケート結果

基調講演

働き方改革の「成功のカギ」がここに！ ～AIを活用した日立的ワークスタイル変革ご紹介～

株式会社日立製作所
システム&サービスビジネス統括本部
サービス営業推進本部 ソリューション開発営業部
主任技師 藤田 卓也様

■プロフィール

1993年からユーザー企業向けのメールシステムやグループウェア・システム案件における設計・構築に従事。1998年より音声系ネットワークSEとして、コールセンターや企業内モバイルネットワーク、TV会議システムなど多くの音声システム案件に従事した。現在は、今までの企業システム・ネットワーク構築のノウハウを生かし、「お客様の業務を知り、新しい働き方の提案」を心がけ日々駆けずり回っている。



働き方の見える化や、AIを活用して社員が生き生きと働ける環境作りの取り組みについて、事例を交えてご講演いただきました。

「長時間残業の縮減」と「労働人口の不足」という2大テーマに対して、生産性の向上やコスト削減などの課題を解決するだけでなく、魅力のある会社となり働きやすさを向上し、社員・スタッフ部門・経営層が理想とするワークスタイルの実現方法についてお話いただきました。

働き方改革の成功のカギは、①経営者の決断・リーダーシップ、②目的・KPIを設定して経営指標に結びつけること、③現状を把握し、

現場の生の声に応えることです。コストとベネフィットのバランスを取りながら、社員一人一人の価値を向上するためのソリューションを選択することが重要となります。

参加者の声

- ・人間関係の見える化ツールは知っていたが、必要性を再認識した。
顧客訪問時間増加や従業員満足度の向上を目標とすれば変革の原動力となるような気がした。
- ・働き方改革の必要性を知る良いきっかけとなった。
- ・日立的事例を聞いて大変勉強になった。今後もこのレベルのユーザー事例が聞けるのであれば必ず参加したい。

マネジメント・トラック

【キーノート】アシスト流デジタルイノベーション ～変革のキーワードはコラボレーションと魅せる化～

株式会社アシスト
システム基盤技術統括部 JP1シニアコンサルタント
藤井 宏樹

IT部門には、ユーザーからの業務要件に応じて、インフラ調達、システム開発、安定運用を提供する機能としての守りのIT運用から、役割として攻めのIT活用へとワークスタイル変革が求められています。これまでの機能を継続しつつ、求められるビジネス視点での、ITサービスを提供するためにもBiz-Dev-Ops連携を意識し、関連部署とのコラボレーションの仕組みをIT部門が検討し提供することが大切です。

ITサービスを提供する業務プロセスを踏まえ、無駄なプロセスの削除や業務移管も含めた業務プロセス改善に加え、関連部署とコラボレーションを増やすための考え方を事例と共にご紹介しました。また、誰に・何を・どのようにITサービスの可視化が必要になるのかを、弊社独自のカテゴリで分類した、ITサービス可視化の成熟度モデルを利用して、4つのステージに分類して実現イメージと合わせてご紹介しました。



参加者の声

- ・IT部門での課題がよくわかった。いろんな役割がある中でどう連携していけばいいのかを考えられさせた。
- ・魅せる化のためのツールについてよくわかった。IT部門変革のヒントが得られた。

【パネル討論】タ方まで生討論!? ～新しいワークスタイルを創ろう～

IT現場の最前線で活躍するパネリストが、IT部門はこれから何をすべきか？IT部門がリードする働き方の改革、新しいワークスタイルは、どのようなことができるのか？また、働き方改革に関連した自動化、AIへの取り組みなど、運用部門に変革を与えられる新しいワークスタイルについて、熱く議論を交わしました。

■ディスカッションテーマ

- ・ IT運用部門のリアル（なぜ3Kと言われるのか？）
～IT運用部門では今何が起きているのか？
- ・ IT運用部門の変革のカタチ
～IT運用部門はどう変わるべきか？変えてはならないものは何か？
- ・ 新しいワークスタイルを創るために何に取り組むべきか？



■パネリスト

アズビル株式会社 松原 健様

NTTコミュニケーションズ株式会社 九重 博昭様

株式会社荏原製作所 佐藤 敦志様

株式会社日立製作所 藤田 卓也様

■モデレータ

株式会社アシスト 蝦名 裕史

参加者の声

- ・ 運用部門の理想と現実が良くわかった。
- ・ IT部門は、経営と事業部門を繋ぐ重要なロールだと思った。
- ・ ワクワクする職場作りをしていきたいと思った。
- ・ IT部門がクリエイティブになっていく可能性が見えて良かった。

テクニカル・トラック

ここでしか聞けない現場の声 ～JP1ユーザ会各社のデジタルイノベーション～

岡三情報システム株式会社 ITサービス運行部
統括マネージャー 中尾 健二様、廣垣 雄也様

分単位の遅れも許されない業務システムを支える運用管理部門の取り組みとして「徹底した品質管理」を実現するための"ボトムアップ型のカイゼン"についてジョブ管理をテーマに発表いただきました。

ジョブ管理業務の品質改善にあたり、JP1/AJS3が蓄積する運用データに着目し、データ活用するための仕組みを自社で構築。ジョブ定義変更作業に関する影響調査や、メンテナンス時のジョブ停止作業などのオペレーションと作業申請との突き合わせで活用し、調査工数や誤操作の削減の成果に繋がりました。また、過去実績からジョブ処理時間を予測し、JP1の遅延監視を自動設定する仕組みを構築することで、処理時間延伸による重障害発生の防止も実現しました。2018年度は、障害監視の領域までデータ活用を拡げ、働き方改革の一環として取り組む不要な対処工数の削減、シフト体制の見直しなどに繋げていく計画を紹介いただきました。



**山崎製パン株式会社 計算センター 管理課
宇佐見 信義様**

コーポレート・ガバナンスを実現するための社内IT資産の正確な管理や運用統制などの課題に対し、その解決に向けた検討の経緯から対策内容、成果を山崎製パン株式会社に実践事例としてご紹介いただきました。

山崎製パン様は10,000台を超えるPCを有しており、更に多数のグループ企業も含めた管理、統制を行う必要があった為、まずは非システムの対策としてルールの整備や周知徹底を行いました。その上で、①IT資産の棚卸、②ソフトウェア管理、③セキュリティ対策、に対してJP1/ITDM2を用いて系統的に運用改善を実施した結果、約70%の棚卸工数の削減や、標準外ソフトウェアの無断利用の約80%の削減、よりセキュアなネットワーク環境の実現などの成果に繋げる事ができました。

2018年度は社内規約などの再整備を最重点課題とし、更なる運用の効率化やWindows10のアップデート対応などに取り組まれていくようです。



参加者の声

- ・ジョブ運用についての改善のユーザーの生の声が聞けてよかった。
- ・他社での使用法について参考になった。ジョブ管理についてはより多くの事例を紹介してほしい。
- ・具体的な話が聞けて参考になった。

IT部門とともに進化を続ける千里眼SaaS ～改善・変革を生むビッグデータは運用現場にあり～

**JFEシステムズ株式会社 情報システム部 古野 敦子様
株式会社アシスト システム基盤技術統括部 JP1コンサルタント 松田 圭祐**

自社のERP基幹システムに対するジョブ運用の予防保守対策の一環として千里眼SaaSをご採用されて約1年。これまでの千里眼SaaSによる運用データ活用、品質改善の取り組み事例をJFEシステムズ古野様にご講演いただきました。千里眼SaaSの導入背景をはじめ、さまざまな運用シチュエーションごとの分析視点や関連部署との情報共有、気づきに対する具体的な改善アクションについてご紹介いただきました。

アシスト技術者・松田からは、これからのデジタルビジネス時代の本格的到来に向けて、いま改めて運用品質の見直しと改善を行うための対応として、「ITサービス可視化」の取り組みをご紹介しました。「ITサービス可視化」のためのアシストオリジナルの分析サービスである『千里眼SaaS 2018-01Updates』のアップデート箇所をはじめ、ジョブ管理を中心とする運用データの具体的な分析手法や改善の勘所、今後のロードマップについてご紹介しました。



参加者の声

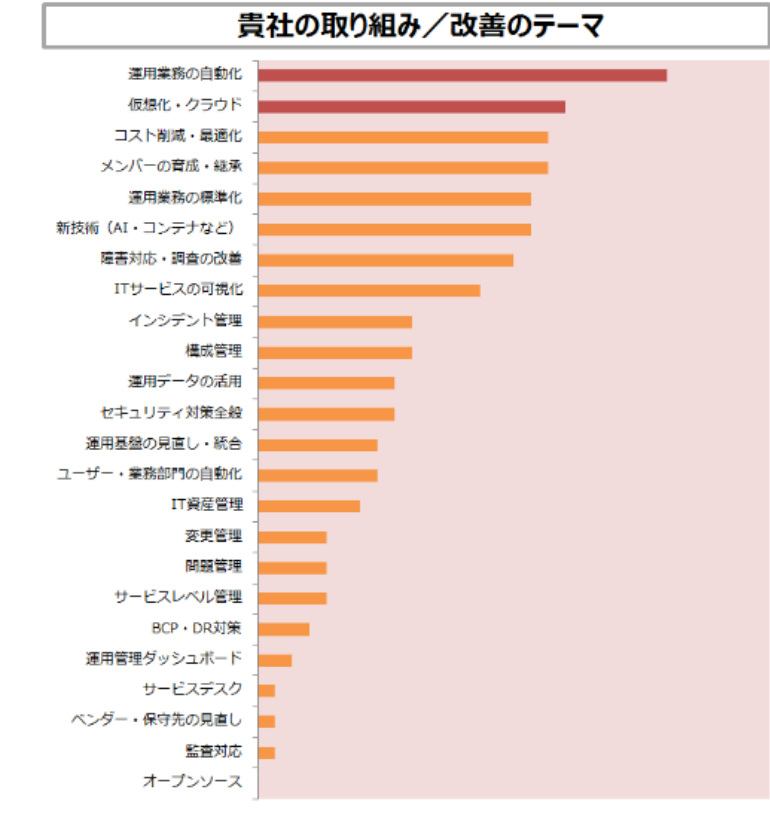
- ・千里眼SaaSの機能、活用のポイントが理解できた。
- ・今後の参考になった。

アンケート

ご来場の皆様にお答えいただきましたアンケートの集計結果です。

2018年の取り組み／改善テーマの1位は「運用業務の自動化」でした。人的ミスの削減や運用効率化、BCP対策など様々な理由で数年前から注

目されている運用業務の自動化ですが、いよいよ本格的に検討をスタートしたいというお客様が増えてきたようです。



[↑ ページトップへ戻る](#)